

帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域の取組み

豊中市教育委員会

1 帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域の概要

平成14年5月1日現在の推進地域内の児童生徒数

	海外帰国児童生徒在籍数	中国等帰国児童生徒数	日本語指導が必要な外国人児童生徒数
小学校	105人	2人	23人
中学校	21人	4人	3人
計	126人	6人	26人

推進地域の特色

大阪空港、東海道新幹線、名神高速道路、中国自動車道等、交通運輸機関の利用に至便の地であり、大阪府の北部中核として大阪市に隣接する住宅都市である。市域南部から北東部の丘陵地区を含めた市全域が住宅化されており、大阪大学をはじめとする高等教育機関が所在する。

宅地化による人口増は、昭和30年～40年代前半急激に進んだが、現在は周辺都市の宅地化が進み、豊中市全体としての人口はやや減少傾向を示している。しかし、千里地区、北部地区を中心に住み換え転入者は多く、市民の教育に対する意識も非常に高い。

帰国・外国人児童生徒の実態

(ア) 在留国（複数在留国あり）

アメリカ	59	インドネシア	1
中国	20	オーストラリア	3
ドイツ	17	韓国	1
シンガポール	10	トルコ	3
イギリス	9	スペイン	1
カナダ	5	マレーシア	3
タイ	4	その他	5

(イ) 在留年数

年数	1・2	2・3	3・4	4・5	5・6	6・7	7・8	8・9	9・10	10~	計
	人数	小 20	17	19	12	12	10	11	1	3	
	中 2	1	1	1	9	1	2	3		1	21

(ウ) 日本語能力の程度

	小学校	中学校
生活及び学習に不自由しない	103	21
日常会話は不自由しない	2	0
日本語をほとんど理解できない	0	0
日本語をまったく理解できない	0	0

## (I) 日本人学校出身、現地校出身の別（複数回答）

		日本人 学 校	現地校	補 習 授 業 校	通 信 教 育	現地校 と補習 授業校	日本人 学校と 通信教 育	就学前 に帰国	その他	計
人 数	小	44	28	4		15		13	1	105
	中	11	6			4				21

## (オ) 学校生活への適応の状況

	小学校	中学校
十分適応している	104	21
ほぼ適応している	0	0
適応していない	1	0

## (カ) 海外において学習していない教科等

日本人学校で教育を受けていた場合は概ね問題はないが、現地校では、国によって学習種目にかたよりがあり、まったく経験のない領域・種目がある。社会科が十分でないのは、当然のこととして、中学校の場合、国語・数学に遅れがみられる。音楽のリコ-ダ-を経験したことのない児童や、体育でも跳び箱、鉄棒といった器械体操や、水泳を一度も経験したことのない児童生徒も多い。

## (キ) 国籍別在日外国人児童生徒在籍数

国 名	小学校	中学校	計
韓国・朝鮮	99	73	172
中国	30	18	48
ベトナム	2		2
フィリピン	4		4
ブラジル	8	3	11
アメリカ	4		4
タイ		1	1
インドネシア	3		3
エジプト	2	1	3
ペルー	2	2	4
モンゴル	1		1
オーストラリア	1		1
ニュージーランド	1		1
シリア	1		1
計	158	98	256

## 2 帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域センター校の概要

学校名・校長名・所在地・学校規模・電話番号・FAX番号・ホームページアドレス

ス・交通等

・小学校

豊中市立上野小学校

校長 小川 義信

大阪府豊中市上野東 2 - 8 - 8

TEL 06 - 6848 - 4021

FAX 06 - 6846 - 9650

URL <http://academic1.plala.or.jp/uenoprim/>

阪急宝塚線・豊中駅下車、阪急バス上野小学校前下車すぐ

児童数 866人(内 帰国児童数47人)

学級数 26(内 養護1)

・中学校

豊中市立第十一中学校

校長 金築 久雄

大阪府豊中市西緑丘 2 - 11 - 1

TEL 06 - 6849 - 3600

FAX 06 - 6846 - 9645

阪急宝塚線・豊中駅下車、阪急バス緑丘下車徒歩3分

生徒数 977人(内 帰国生徒数20)

学級数 27(内 養護2)

センター校への通級児童生徒数

なし

センター校での指導時間及び指導内容

小学校・正課における個別指導(入り込み指導)

日本の学習方法や語彙、漢字の読み書きの説明、算数等が中心

中学校・日本語の困難な生徒には、入り込み指導

小学校・課外指導

主に算数、国語(漢字、文法)、社会、音楽(鍵盤ハーモニカ、リコーダー)などの未学習部分の補習や不得意分野の学習を行う。

中学校・定期テスト前の補習や学習指導

センター校を中心とする帰国・外国人児童生徒指導協力体制

全市的に帰国・外国人児童生徒並びに保護者の教育相談に応じるとともに市教育研究会(豊中市帰国児童生徒教育研究会)の中心として、研究活動を行っている。

他校の教職員に対しても、随時情報の提供や教材、資料の紹介などを積極的に行っている。

3 帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進体制の整備

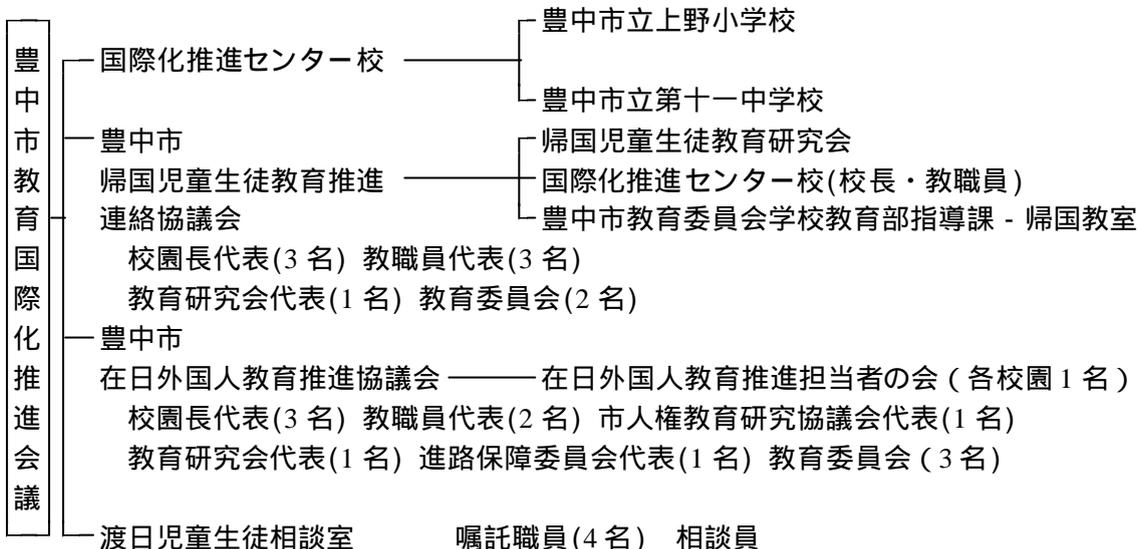
教育国際化推進連絡協議会の概要

ア 活動状況(平成14年度)

- ・帰国教室開室(17回) 指導者・保護者との懇談(4回)
- ・豊中市在日外国人教育推進協議会(7回)
- ・在日外国人教育推進担当者の会議(5回)

- ・豊中市帰国児童生徒教育推進連絡協議会（3回）
- ・渡日児童生徒への日本語指導研修会（2回講座）
- ・帰国児童生徒教育研修会（1回）

#### イ 構成員及び組織体制



#### ウ 協議会設置の効果

- ・異文化のもと生活してきた帰国・外国人児童生徒の適応教育、海外で獲得した様々な特性の保持をすすめる教育、さらに帰国・外国人児童生徒を核として異なるものを認め合い大きな視野で物事を考えようとする国際理解教育を3本柱として研究を深めてきた。
- ・帰国教室における日本語の集中的な指導や未学習教科等に対する指導により、学習や生活への適応がさらに円滑に進むとともに、帰国児童生徒同士で学習する気安さから様々な不安を和らげる面においても大きな効果をあげている。
- ・帰国・外国人児童生徒の在籍する学校も多く、帰国・外国人児童生徒の受け入れや適応指導に対する教育的配慮が各小中学校においてより必要となり、保護者対象の相談活動の充実も期待されている。センター校を中心としての情報提供や手引書配布等により、担任の意識も変わると共に、単に個性として割り切ってしまうのではなく帰国・外国人児童生徒に対する理解も得られるようになり、学校生活への適応もスムーズになった。また、編入学時には教育委員会において担当指導主事が面談を行い、帰国・外国人児童生徒受入れ体制の説明や相談に応じ、受け入れ校とも連携を密にできている。
- ・上野小学校・第十一中学校の両校は、センター校として、課外指導、教育相談、教材や指導資料の整備の充実に努めてきた。センター校を中心として市内全帰国児童生徒の保護者を対象とした「保護者会」の活動をとおして、児童生徒間の親睦、保護者間の親睦・連携を深めることができた。
- ・各学校において国際理解教育推進のための年間指導計画が作成され、在日外国人との交流や各国の文化紹介、海外の学校との文通交流、道徳教材を用いての学習等それぞれの学校で工夫しながらの実践が盛んに行われるようになった。
- ・在日外国人教育推進協議会を中心に「学校園関連文書対訳集」見直しの作業を進め、平成15年度に改訂版を発行しその活用を考えている。

#### 加配教員の活用状況

国際化推進地域加配教員として、豊中市立上野小学校に1名配置されている。センター校に編入学してくる帰国児童に対する教育の中心的役割を担い、帰国児童在籍クラスへの授業の入り込み指導、放課後に集めての学習指導、保護者会対応等活躍している。また、隣接する豊中市立第十一中学校とも連携を取りながら全市的な視野で帰国・外国人児童生徒教育を推進するため、日々各校との相談活動や情報提供に努めている。

教育相談員の派遣状況及びその効果

渡日児童生徒相談室に中国人相談員を配置。(週1回程度)

#### 4 平成14年度の具体的な取り組み内容とその成果について

##### 研究主題

- ・学校における帰国・外国人児童生徒とその他の児童生徒の相互啓発による国際理解・異文化理解教育のための指導内容・指導方法の研究
- ・帰国・外国人児童生徒等の受入のための体制作り及び彼らに対応した適応指導、教育相談、日本語指導等、個に応じたきめ細かい指導方法の実践研究  
(設定趣旨・理由)

市内全校園において帰国・外国人児童生徒の受け入れと受け入れ後の適応教育を円滑に推進するには、各学校園相互の実践交流や研修の場の設定が必要であり、また、国際的な感覚を身につけた、視野の広い人間の育成をめざし、国際理解教育を推進していくための具体的方策を探っていく。

##### 研究主題に関連した活動及びその成果

###### ア 帰国教室の開催 小・中学校別

平成14年5月18日～平成15年2月15日

休業日以外の土曜日 年17回 午前9:30～11:30

###### (成果)

日本の生活様式、生活習慣、日本文化の紹介、学習指導等を具体的に、また、児童生徒の実態に即して指導するとともに、海外で身につけた貴重な経験を本人が自信を持って個性として伸長できるよう働きかけることにより、児童生徒はもちろん、帰国児童生徒をもつ保護者のさまざまな不安を和らげることににおいても大きな効果をあげた。

###### イ 帰国児童生徒に対する教育相談の実施

小・中学校のセンター校において、センター校在籍児童生徒を対象に必要なに応じて、学習面、生活面の相談に適宜あたっている。また、教育委員会指導課において受け入れ時の相談を行っている。

###### ウ 在日外国人教育推進担当者の会活動

市内各公立幼稚園、小学校、中学校から1名ずつ在日外国人教育の研究推進のために選出し、担当者の会を組織している。年間5回の会議をもち、活動の推進・運営上の諸決定や諸連絡などを行い、各学校園での在日外国人教育推進の任を担っている。

今年度は、小学校の総合的な学習の時間の取組の中から、国際理解教育の実践報告を行い、意見交流をまじえ今後の各校での実践への参考とした。

##### 推進地域としての取組及びその成果

多くの小中学校に帰国・外国人児童生徒が在籍している状況があるため、毎年全校園の教職員を対象に研修会を開催している。今年度も以下の研修会を開催した。

ア 渡日児童生徒への日本語指導研修会

内 容 「日本語指導の必要な児童生徒の受入にあたって」

イ 在日外国人教育研修会

内 容 「多文化共生を考える」

ウ 帰国児童生徒教育研修会

内 容 「多文化共生の学校づくり」～ヒューマンネットワークを活用して～

(成果)

日本語指導を必要とする児童生徒への支援の仕方や、指導の実際について実習を取り入れながら、短期連続講座(2コマ)として研修を進めた。また、外国籍や帰国の子どもたちと日々接する教職員の基本的な考え方や態度について、幅広い視点からの話を聞くことができたり、事例も多く紹介された。ひとりひとりが抱えるバックボーンのちがいにどこまで寄り添って共感できるかが、彼らへの最大の支援となることなど、認識を新たにすることが多くあった。

帰国・外国人児童生徒とその他の児童生徒の相互啓発の観点による取り組み及びその成果

年間を通して学校、学年、学級行事の中に国際理解教育を組み込み実践している。センター校の上野小学校や第十一中学校では地域に住む在日外国人や留学生を招いての直接交流会や学習発表会、作品展での国際理解の推進、また国際理解のための講演会の実施や総合的な学習の時間での実践など多彩な取り組みを行っている。

(成果)

上記のような活動をとおして、その他の児童生徒の国際理解教育を深める契機となったり、帰国外国人児童生徒自身にとっても、自らの経験がみんなの前で紹介されることにより自信を強め、自尊感情の醸成に役立ったりしている。

地域と連携した活動(地域の人材の活用状況等)及びその成果

センター校である豊中市立上野小学校では、帰国児童の保護者が帰国保護者会を結成され、さまざまな活動に取り組んでいる。その中で「ワールドミュージアム」と題して在留国の衣装や生活雑貨等を展示し、各国の文化や生活について児童や保護者、地域に紹介している。また、学校の総合的な学習の時間における国際理解教育のゲストティーチャーとしても、積極的に異文化体験を児童に伝えている。

こうした活動の成果として、他の児童が身近なクラスの友だちが経験してきた外国での生活を理解したり、興味関心を持ったりする契機になっている。

連携した団体等の概要

『とよなか国際交流協会・センター』

所在地：豊中市北桜塚3-1-28

TEL：06-6843-4343

FAX：06-6843-4375

URL：<http://www.tcct.zaq.ne.jp/toyonakakokuryu>

その他特筆すべき平成14年度の成果と課題

- ・「渡日の子どもをむかえた学校の手引き」冊子の完成、配付
- ・「学校園関連文書対訳集」(改訂版)の発行と活用促進
- ・帰国保護者会の全市的なネットワーク化
- ・帰国児童生徒保護者へのアンケート実施
- ・帰国児童生徒の現状把握と個別対応の促進